



平成26年3月3日

各 位

会社名 Oak キャピタル株式会社
代表者名 代表取締役会長兼CEO 竹井 博康
(コード番号3113 東証第二部)
問合せ先 広報・IR室長 小玉 誠一
(TEL. 03-5412-7700)

株式会社ソフトフロント (東証JQG 2321) に対する成長支援投資実行のお知らせ

当社はこの度、株式会社ソフトフロント (以下「ソフトフロント」) の成長支援を目的とした総額5億円のエクイティファイナンスの引受けを決定いたしましたので、その概要に関し下記の通りお知らせいたします。

記

1. ソフトフロントの「中期経営計画」達成に向けた成長支援投資

当社は、IP電話やビデオ会議システムのソフトウェア開発を手掛けるなど、独自の技術力を背景に、事業展開をおこなっているITベンチャー企業です。当社は平成25年7月に、同社に対する総額3億円のファイナンス支援を実行しておりますが、引き続き成長支援を目的に本投資を実施することで両社合意いたしました。

本年度、同社の成長戦略は、インターネット通信技術の優位性を活かし、同社の「中期経営計画」に基づいて展開する「3つの事業領域」①既存事業の成長戦略、②アジアマーケットに進出③新規成長基盤としてサービス事業の展開など、それぞれにおいて、事業、技術の両面を加速的に推進させることであり、その中でも成長するクラウド型インターネットサービス事業分野における事業開発・研究開発に注力しております。

本投資によって、同社の成長シナリオ達成および企業価値向上の役割となることを目的にしております。

2. ソフトフロントへの投資総額5億円の内訳

新株の引受け	1.5億円
新株予約権の引受け	3.5億円 (権利行使による払込み予定総額)
合 計	5.0億円

3. 投資後の出資比率

投資総額の当社出資比率は20.85%であります。

4. ソフトフロントの概要 (平成25年12月31日現在)

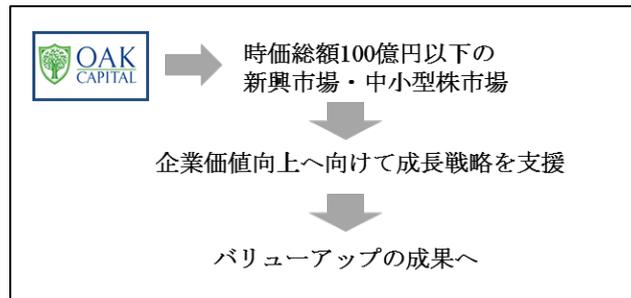
- (1) 商 号：株式会社ソフトフロント (東証JQG 2321)
- (2) 代 表 者：代表取締役社長 阪口 克彦
- (3) 所 在 地：札幌市中央区北9条西15丁目28番地196
(東京本社) 東京都港区赤坂4丁目2番19号
- (4) 設 立：平成9年(1997年)4月
- (5) 事 業 内 容：ソフトウェアの受託開発、販売、技術支援等
- (6) 決 算 期：3月
- (7) 従 業 員 数：57名
- (8) 資 本 金：29億44百万円
- (9) 発行済株式総数：115,489株
- (10) 株 主 構 成：村田利文 5.80%、NTTインベストメント・パートナーズファンド投資事業組合 4.96%、Oakキャピタル 4.46% 他 (平成25年9月30日現在)
- (11) U R L：<http://www.softfront.co.jp/>

5. 投資実行の予定日

払込期日：平成26年3月24日

6. 本年度の新興市場、中小型株市場に向けた成長支援を支援

当社は国内外の企業向けに資金調達及び成長戦略の支援を実施してまいりました。本年度は活発な株式市場の動きを捉え、上場企業向け成長支援投資（エクイティファイナンスの引受け）を拡大する方針で取り組んでおります。また、時価総額100億円以下の企業に向けた成長戦略のための資金調達や事業再生を目的とした財務支援等を実施することにより、株式市場の更なる活性化と日本経済の本格的復活に寄与できると考えております。



7. 企業再生投資および事業再生投資分野を重視

2013年は主力企業を中心に目覚ましいV字回復を果たしました。しかしながら、長引く景気低迷や市場の構造変化など、様々な要因で新興市場や小型株市場ではまだ業績の回復が遅れております。当社は、こうした状況下で会社再建や事業の再構築を図る企業を対象に、企業価値向上を目的とした支援の投資分野を実施してまいります。

8. 投資対象分野

スマートフォンコンテンツ、インターネットビジネス関連、情報通信、メディカル、不動産、ロボット、精密機械、食品事業、ブランド企業

9. 主な投資先実績

セーラー万年筆（東証2部7992）、フライトホールディングス（東証M3753）、ソフトフロント（東証JQG2321）、ナノ・メディア（東証M3783 ※平成25年5月上場廃止）、KL a b（東証1部3656）、アクロディア（東証M3823）、ウインテスト（東証M6721）、大泉製作所（東証M6618）、デジタルポスト、軽井沢エフエム放送、クリストフルジャパン（フランス製銀食器の世界的ブランド）、山田平安堂（宮内庁御用達の漆器の名門）

10. 当社の業績推移（2013年4月～12月までの9か月間）

当社のインベストメントバンキング事業は、企業再生投資分野で成果を上げ、平成26年3月期第3四半期の業績は売上高39.8億円、純利益6.7億円となりました。本年度も引き続き上場企業向け資本政策（資金調達）と成長シナリオ（事業戦略）の支援投資を重点に展開してまいります。



以上